



札幌市からの情報共有 資料

気候市民会議さっぽろ2025

2025年2月2日（日）

札幌市 環境局 環境都市推進部

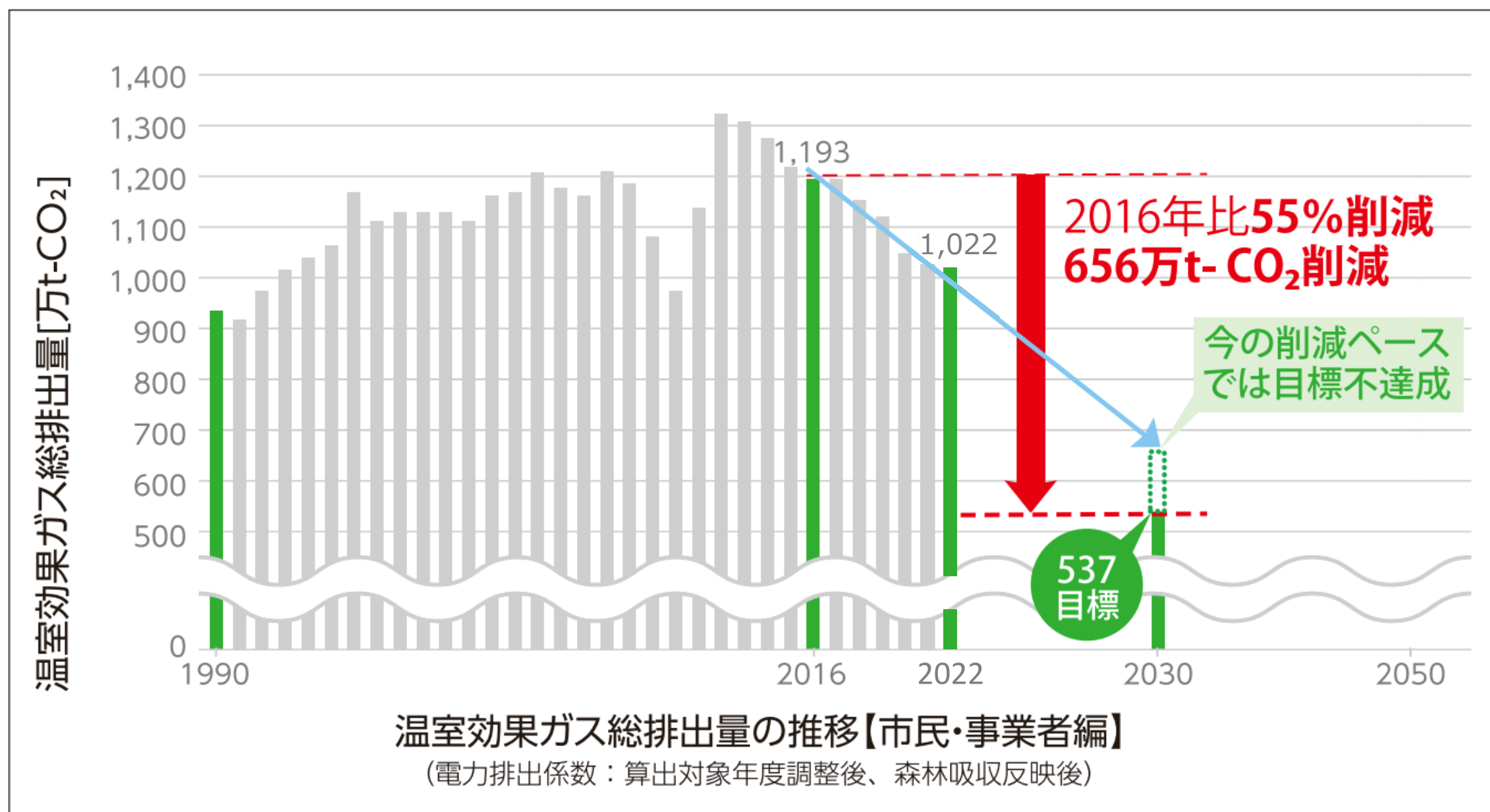
まちづくり政策局 総合交通計画部

1 札幌市の温室効果ガス排出状況

2 札幌市の「移動」に関する気候変動 対策の取組

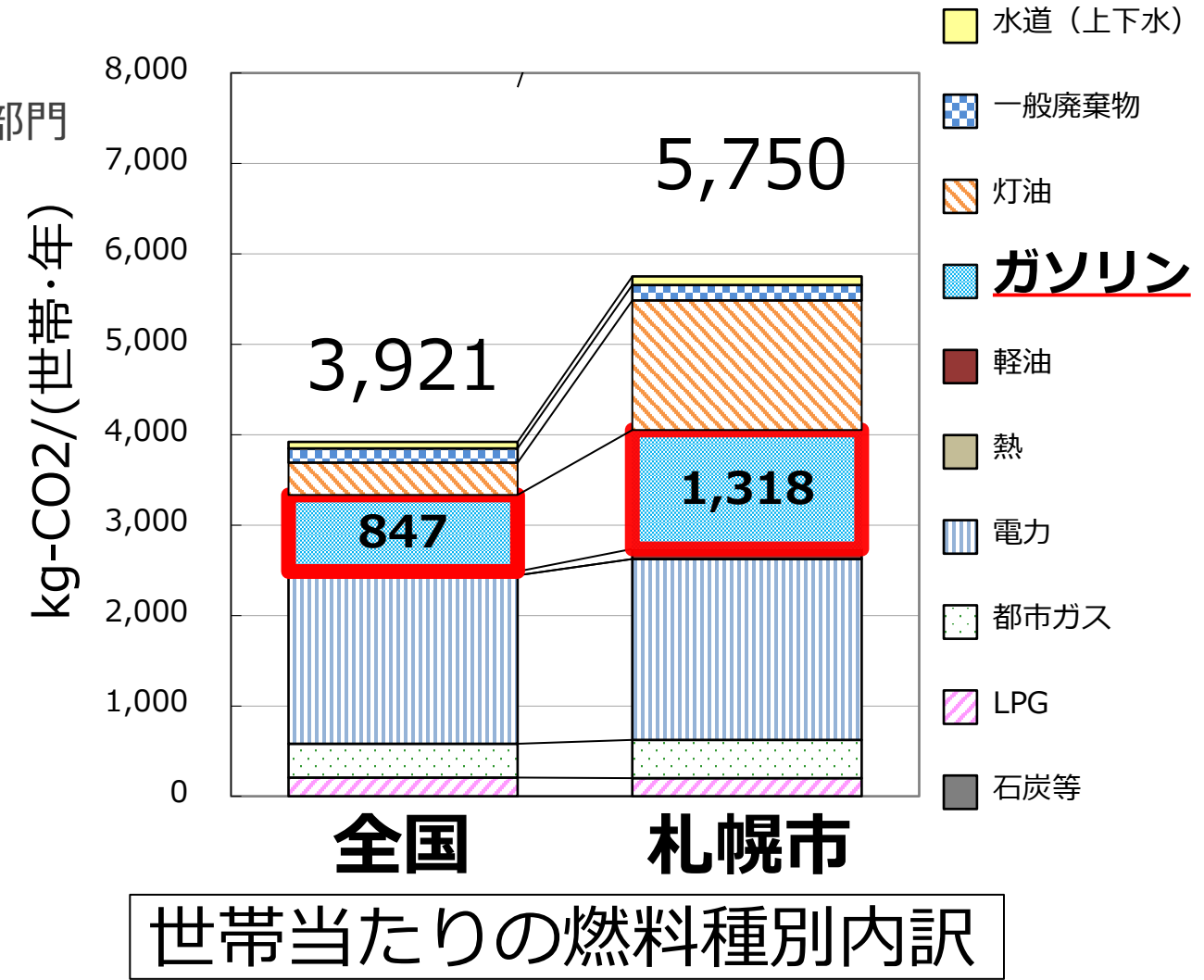
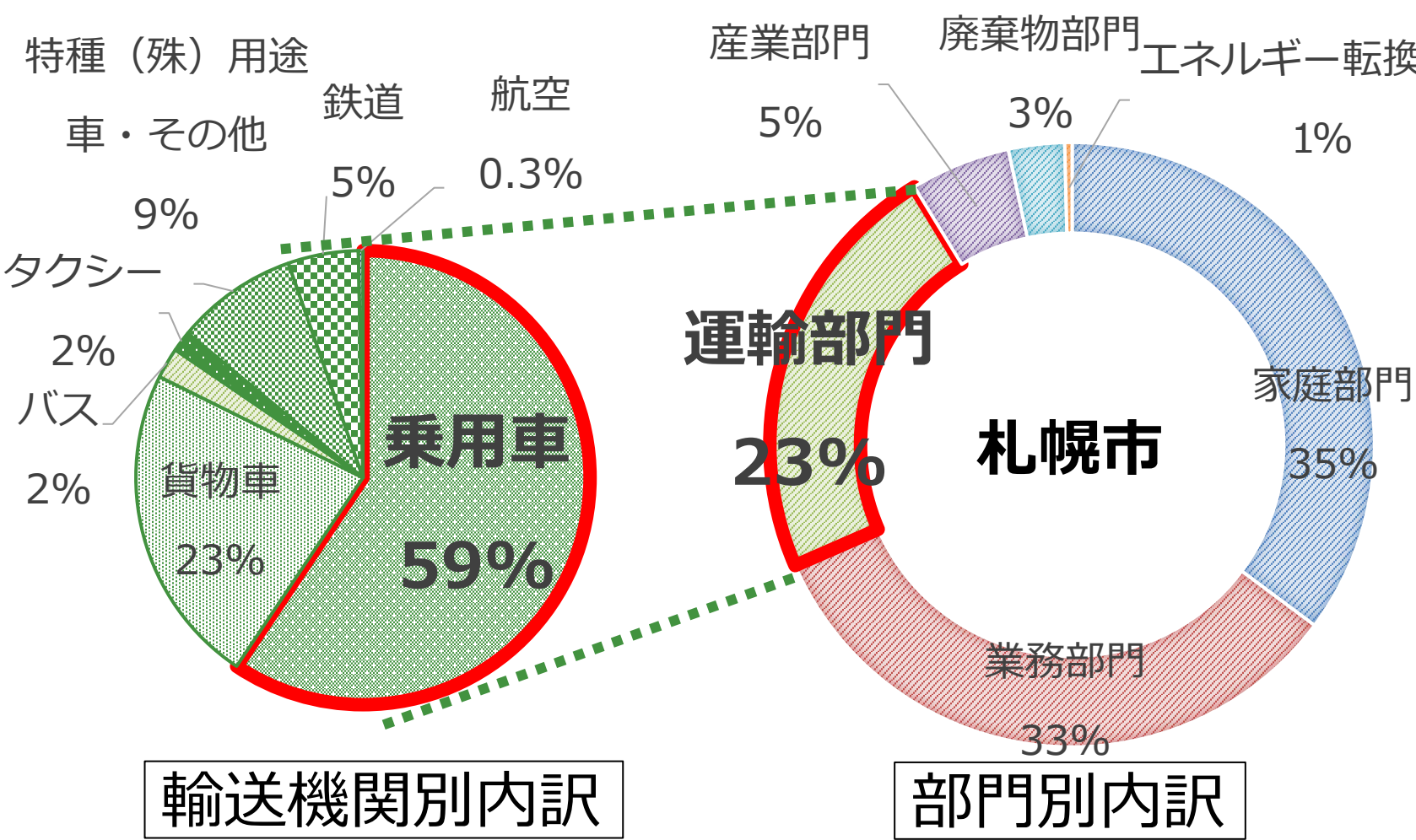
(前回の復習) 札幌市の温室効果ガス排出状況① 3

- 2022年度の温室効果ガス排出量は1,022万t-CO₂と、目標の基準年である2016年度比では14%削減となっています。
- 目標達成に向けては更なる取組の強化が必要です。



札幌市の温室効果ガス排出状況②

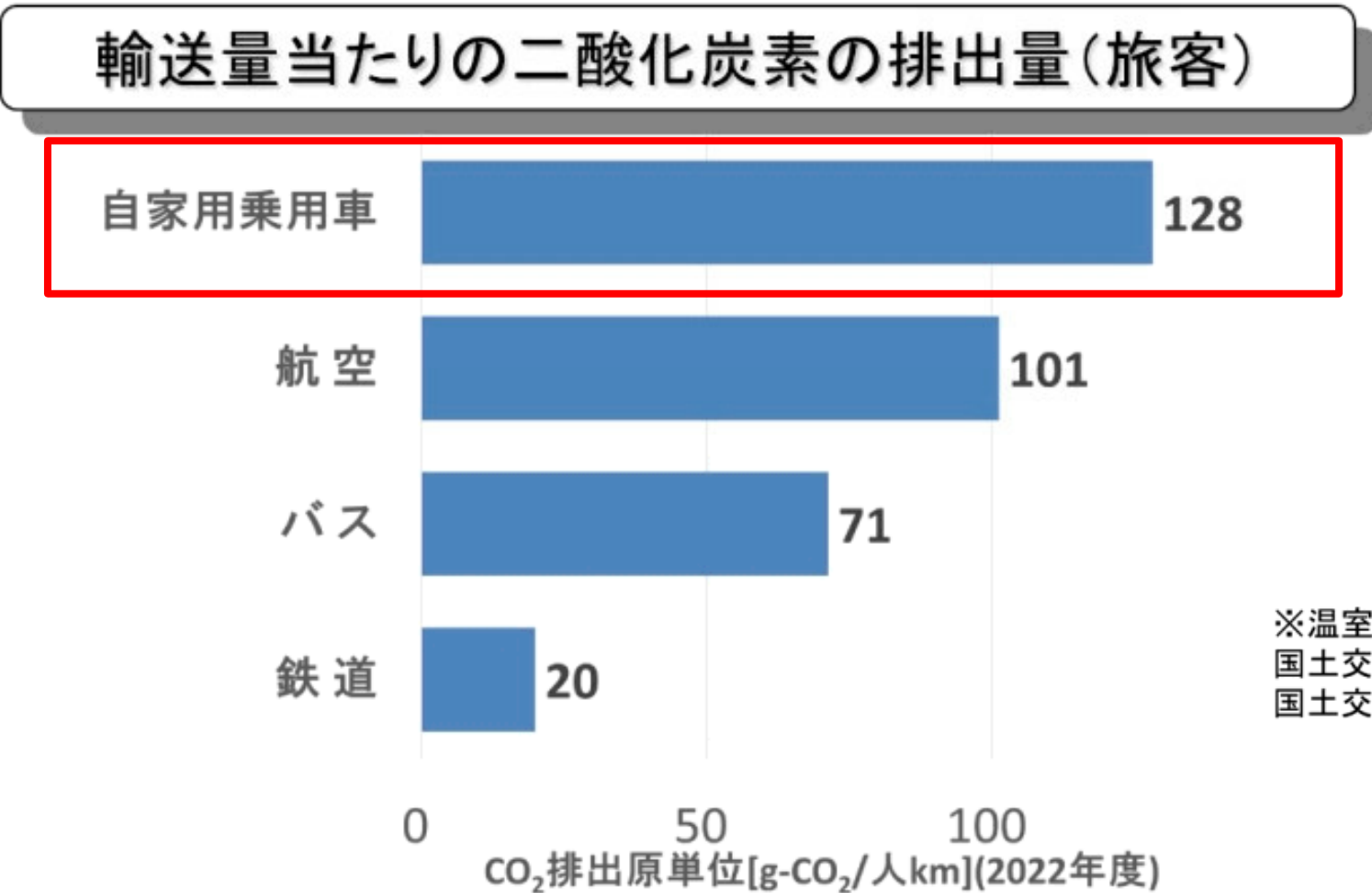
- 部門別内訳としては、運輸部門（自動車、鉄道、航空機など）からの排出が23%と3番目に多く、輸送機関別では乗用車からの排出が59%となっています。
- 全国と比較すると、世帯当たりのガソリンからの排出が多くなっています。



(参考) 移動手段別のCO₂排出量の比較

● 単位輸送量※あたりのCO₂排出量を比較した場合、自家用乗用車が128g-CO₂/人kmと最も多く排出しています。

※単位輸送量：移動時に排出されるCO₂排出量 [単位：g-CO₂] を輸送量 [単位：人km (移動した人数に移動した距離を乗じたもの)] で割って算出



※温室効果ガスインベントリオフィス:「日本の温室効果ガス排出量データ」、国土交通省:「自動車輸送統計」、「航空輸送統計」、「鉄道輸送統計」より、国土交通省 環境政策課作成

出典：国土交通省ウェブサイト
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_tk_000007.html

1 札幌市の温室効果ガス排出状況

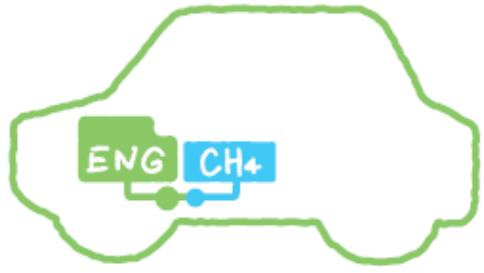
2 札幌市の「移動」に関する気候変動 対策の取組

ゼロエミッション自動車の普及推進①

- 自動車から排出される温室効果ガスを削減するため、次世代自動車の中でも、特に走行中に二酸化炭素を排出しないゼロエミッション自動車の普及を推進しています。

次世代自動車

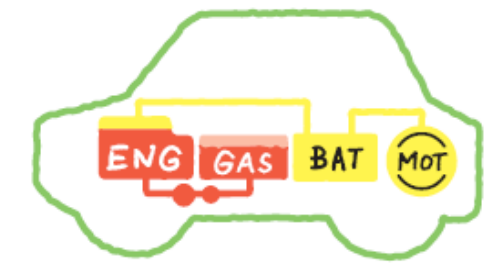
○天然ガス自動車 (NGV)



○クリーンディーゼル自動車 (CDV)

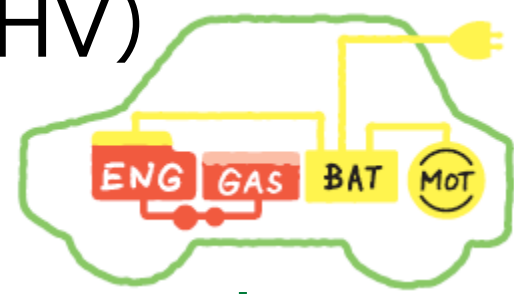


○ハイブリッド自動車 (HV)



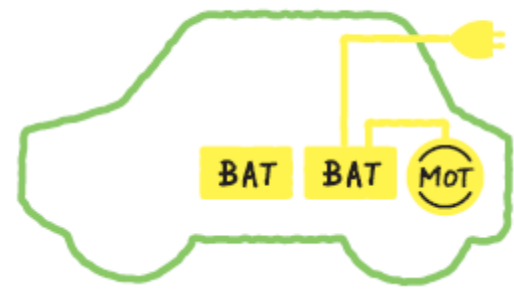
ゼロエミッション自動車

○プラグインハイブリッド自動車 (PHV)

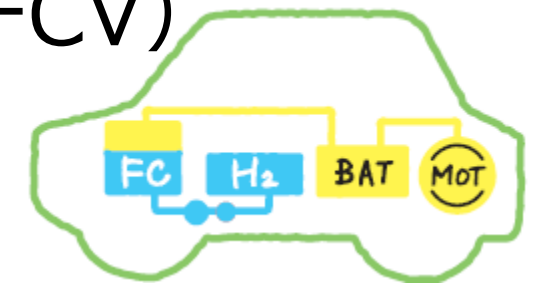


※バッテリー走行時は
ゼロエミッション

○電気自動車 (EV)



○燃料電池自動車 (FCV)



※水素と酸素の化学反応で電気を発生
させてモーターを駆動させる自動車

ゼロエミッション自動車の普及推進②

- EV及びFCVの導入が進むよう、車両及び充電設備への補助を行っています。

電気自動車



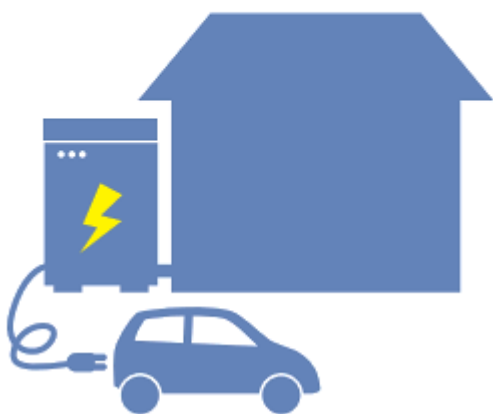
補助額：
EV 定額10万円
軽EV 定額 5万円

燃料電池自動車



補助額：
定額50万円

V2H充電設備



補助額：
1/3
(上限15万円)

集合住宅への 充電設備



補助額：
1/2
(上限15万円)

ゼロエミッション自動車の普及推進③

- EV・FCVの導入が進むよう、公用車EV・FCVを活用した普及啓発を行っています。
- ゼロエミッション自動車は非常用電源としても活用可能であり、北海道胆振東部地震による大規模停電の際には、市役所本庁舎で実施した携帯電話の充電サービスの電源として、公用車FCVを活用しました。

EVを再エネ100%電力で充電して走行することで**ゼロカーボン・ドライブ**を実践



(参考) 地下鉄での再生電力利用

10

- 2024年4月から、清掃工場でごみを燃やす時に出る熱を使って発電した電力の余剰分を地下鉄3路線に供給しています。
- 地下鉄や駅舎で消費する電力の約70%をゼロカーボン化し、電力の地産地消とCO₂排出量の大幅な削減を実現しました。
(CO₂ 排出削減量：約 45,000 トン/年、一般家庭 約 1 万世帯分)



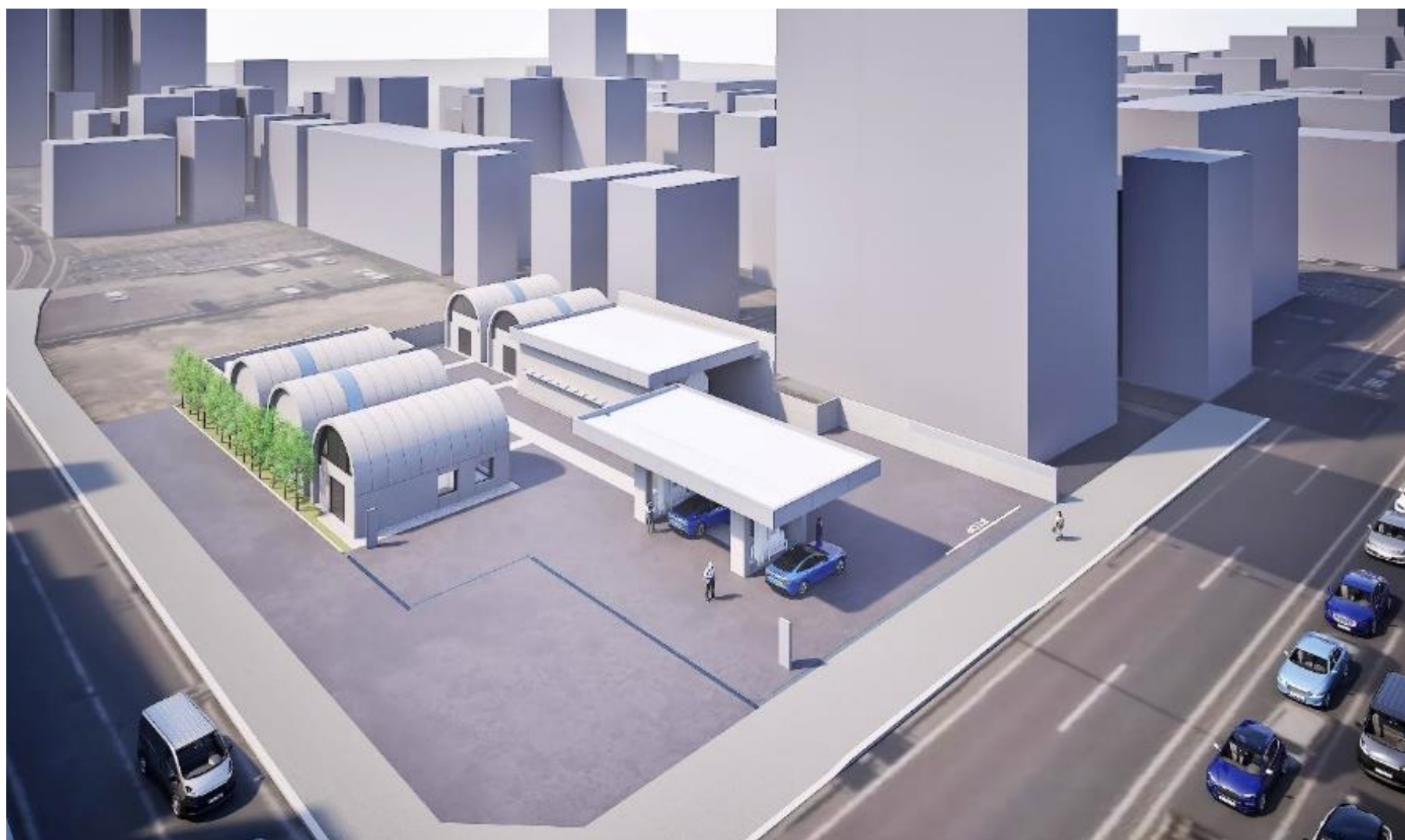
↳ 2025年4月から

100%ゼロカーボン化予定

(駒岡清掃工場の更新に伴い
発電能力 3 倍)

ゼロエミッション自動車の普及推進④

- 旧中央体育館跡地（中央区大通東5・6丁目）では、道内初となるバスやトラックなど、大型車両にも対応可能な、定置式水素ステーションが今春供用開始予定です。

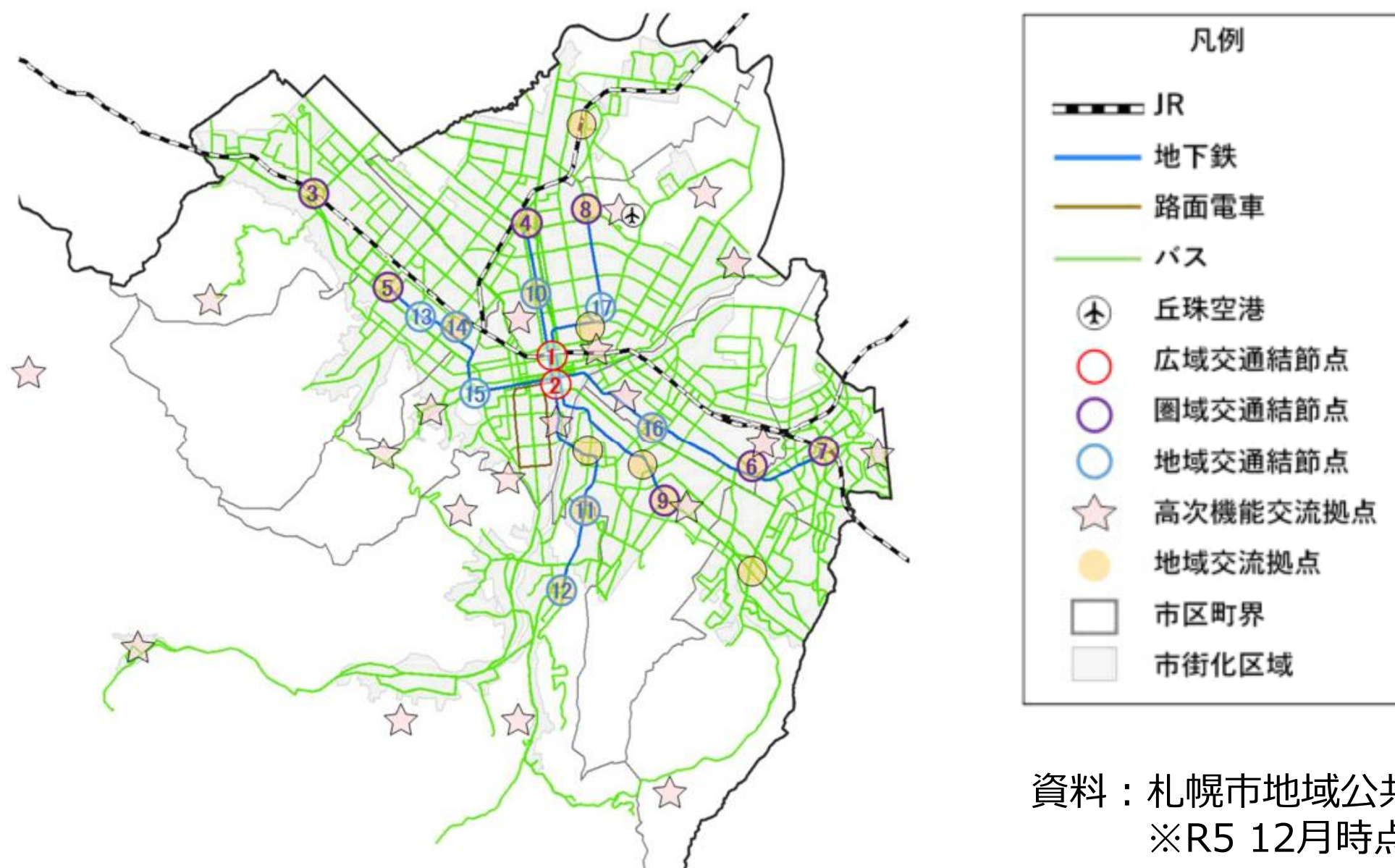


創成川以東地域ではFCVによる新たな公共交通システムの構築を検討

※本パースはイメージです。
変更となる場合があります。

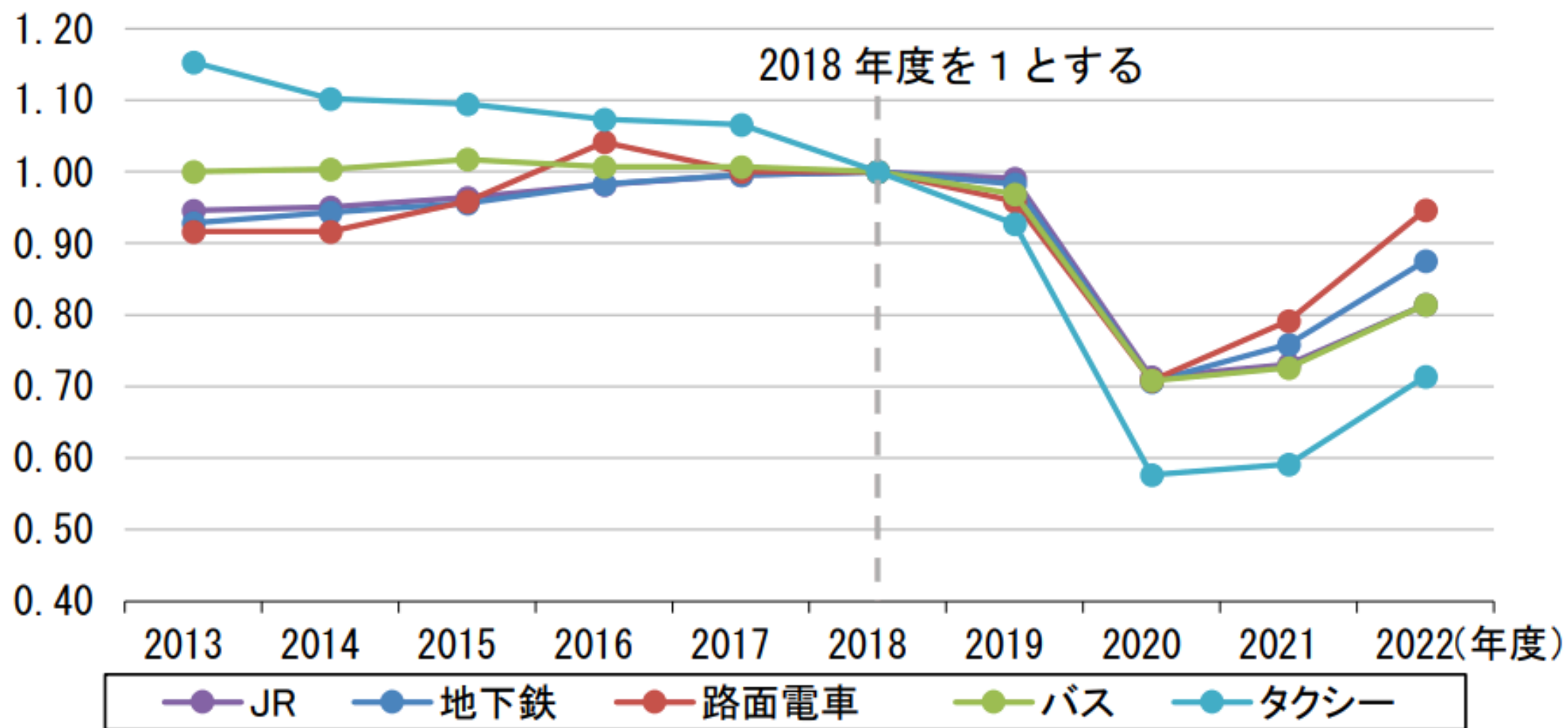
公共交通の利用の推進①

- 札幌市は、市街化区域のほぼ全域において、地下鉄・JR・路線バスなどの公共交通による移動が可能となっており、この公共交通ネットワークを維持していく必要があります。



公共交通の利用の推進②

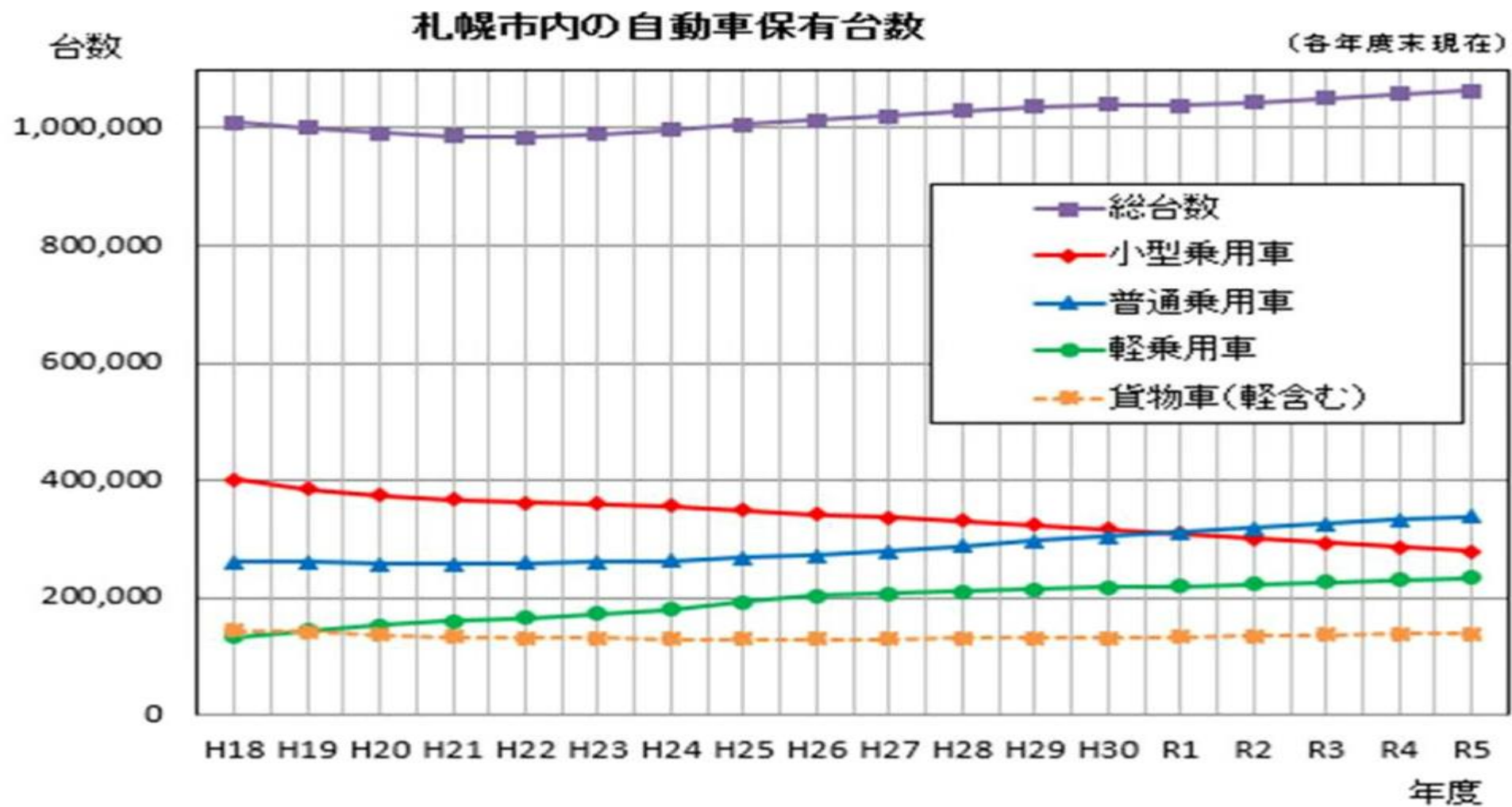
- 公共交通の利用者数は、新型コロナウイルスの影響により、2020（令和2）年度に大きく減少し、その後は回復傾向にあるものの、コロナ禍前の状況までは回復していません。



資料：札幌の都市交通データブック2023

公共交通の利用の推進③

- 札幌市内の自動車保有台数はおおむね増加傾向にあり、自動車の利用頻度は増えていく見通しです。



資料：環境局プレスリリース「札幌市内の次世代自動車保有台数について（2024.12）」

公共交通の利用減少・自動車利用の増加が続いた場合、バス路線の廃止など、公共交通ネットワークの維持が困難となることが懸念されています。

公共交通の利用の推進④

- 札幌市では、市民の皆さんが自発的に自動車から公共交通へ転換することを後押しするために、「モビリティ・マネジメント」の取組を進めています。

■モビリティ・マネジメントとは
1人1人の移動（モビリティ）を、「過度に自動車に頼る状態」から「公共交通などを“かしこく”使う状態」へと変えていくことを促す様々な取組みのこと。



公共交通の利用の推進⑤

- 将来の公共交通利用者である子どもたちに、公共交通の意義や役割などを学んでもらうため、交通環境学習を実施しています。
- 市内小学校（3・5年生）に公共交通を題材にした学習資料を配布し、学びの機会を提供しています。



3年生学習資料「みんなの乗り物 公共交通」



5年生学習資料「情報を生かす札幌の公共交通」

公共交通の利用の推進⑥

- 公共交通を手軽に利用できるよう、札幌市内の主な公共交通の時刻表、運賃、乗継経路などが検索できる「さっぽろえきバスナビ」を提供しています。
- バスの接近情報や遅延情報などの運行状況を提供するバスロケーション機能を追加し、利便性の向上を図っています。
- インターネット、スマホアプリでサービスを提供しています。



※バスロケーション機能画面のイメージ

公共交通の利用の推進⑦

- 誰もが使いやすい公共交通の実現に向けて、ノンステップバスやユニバーサルデザインタクシーなどのバリアフリー化された車両の導入を図っています。
- 札幌市では、車両を導入する交通事業者に対して、補助事業を実施しています。



ノンステップバス：
出入口の段差を無くして乗降性を高めた低床バス



ユニバーサルデザインタクシー：
車内空間が広く、スロープでの乗降が可能なタクシー車両

公共交通の利用の推進⑧

- 温室効果ガスを排出しない自転車も環境負荷低減の重要な役割を担っています。
- 札幌市の交通体系の骨格は公共交通が担っていますが、自転車も“公共交通を相互補完する移動手段の一つ”として位置付けています。



サイクリングロード「白石こころーど」



自転車通行位置の整備

公共交通の利用の推進⑨

- 札幌市では、民間事業者がシェアサイクル事業「ポロクル」を運営しています。
- ポロクルは、電動アシスト付き自転車を好きな時間に好きな区間で利用できるといった利便性の高さから、近年利用が拡大しております。



市役所敷地内のシェアサイクルポート



出典：ポロクル資料

計画の成果指標と進捗について

〔移動〕 移動の脱炭素化

成果指標

【2016年】 10%

➡ 【2022年】 22% ➡ 【2030年】 60%

市内の自動車保有台数に占める次世代自動車の割合

現状の課題感等

○ハイブリッド自動車を中心に次世代自動車の台数が増加しているものの、EV・FCVの台数はまだ少なく、さらなる取組強化が必要である。
○公共交通の利用促進等による自動車利用の最適化も必要。

